
関連施設

田上診療所

訪問看護ステーション 野の花

訪問リハビリテーション事業所

種子島医療センター・田上診療所

介護老人保健施設 わらび苑

院内保育所



島の北部、巨大木生シダが群生する「ヘゴの森」。太古の地球を思わせる神秘的な場所です。
写真提供：研修医

田上診療所

医療事務 上田 茜

私は令和7年10月、職場見学をきっかけに入職しました。新しいことに挑戦したいという気持ちで飛び込んだものの、医療事務の経験が一切なく、覚えることの多さに最初は大きな不安を感じていました。そんな中、スタッフの皆さんが親切かつ丁寧に指導してくださり、日々感謝の気持ちでいっぱいです。

以前、患者として来院していた頃には気づかなかったのですが、スタッフと患者さまが親しく言葉を交わし、互いの距離がとても近いことに入職してから気づかされました。長年かけて築かれた信頼関係の温かさを、毎日肌で感じています。

まだまだ分からないことばかりですが、入職当初と比べると少しずつ成長できていると感じています。これからも地域の皆さまと診療所の力になれるよう、精一杯努力してまいります。

○職員体制

院長/岩元二郎

非常勤医師/瀬戸山 充(皮膚科)、竹野孝一郎(内科)、田上寛容(循環器)、中目康彦(泌尿器科)、西遼太郎(小児科)、石坂俊介(小児科)、嶋田博文(整形外科)、吉留寛人(整形外科)、山神 大(糖尿病内科)、堀之内咲衣(糖尿病内科)

事務長/濱添信人(令和6年11月1日就任)

看護師長/政田育子

看護師/秋田由紀代、峯下代美子、石堂いみ子、中崎真美、能野清隆、後迫愛美

医事課/立石鈴美、秋田幸子、大久保沙織、上田 茜

○人事面

入職/上田 茜(医療事務)、能野清隆(看護師/放射線技師)、後迫愛美(看護師)



○診療面

	午前	午後
月	(内科) 竹野 Dr.	(内科・小児科) 岩元 Dr.
火	内科/小児科 岩元 Dr.	(糖尿病内科) 山神 Dr. 堀之内 Dr.
水	(内科小児科/泌尿器科) 岩元 Dr. / 中目 Dr.	(循環器科) 田上 Dr.
木	(内科・小児科/皮膚科) 岩元 Dr. / 瀬戸山 Dr.	(皮膚科) 瀬戸山 Dr.
金	(内科) 竹野 Dr.	(小児科) 小児科 Dr.
土	(内科/整形外科) 竹野 Dr. / 整形外科 Dr.	(整形外科) 整形外科 Dr.

※整形外科:月2回(土曜日)

○トピックス

令和7年度より、毎週火曜日の午後に糖尿病内科専門外来を開設しました。山神大先生・堀之内咲衣先生が隔週で担当され、これまで種子島医療センターへの受診が必要だった中種子町・南種子町の患者様も、田上診療所で専門的な糖尿病治療を受けられるようになりました。糖尿病は生活習慣病の中でも特に患者数が多く、専門的な管理や治療が重要とされています。地域の皆さまにとって身近な場所で専門外来を受診できるようになったことは、通院負担の軽減はもちろん、継続的な治療を受けやすい環境づくりにもつながる大きな前進です。

また、令和8年2月11日には、田上診療所主催による初めての島民医療講話を開催しました。田上寛容理事長が講師を務め、地域の健康増進に役立つ内容をわかりやすくお伝えしました。200名以上の地域住民の方にご参加いただき、大好評のうちに終了しました。今後も地域の皆さまの健康を支える取り組みを続けてまいります。

さらに、田上診療所は新築移転を決定しており、令和8年度は新たな診療環境の実現に向けて、職員一丸となって準備を進めてまいります。

田上診療所 島民医療講話 『今日も血圧がせんくんまんくん』

事務長 濱添 信人

島民医療講話を初開催

—地域とともに、健康を考える一日—

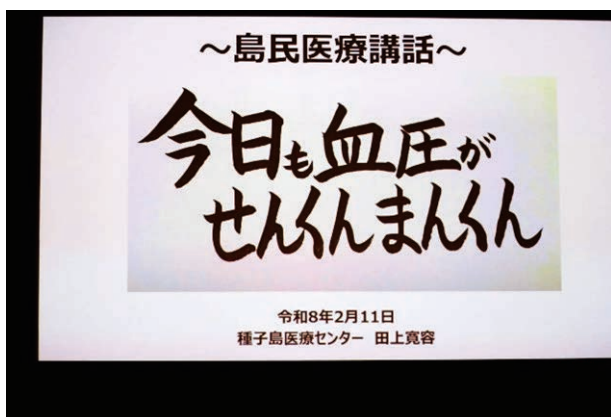
令和8年2月11日(水)午前9時30分から11時、『種子島こりーな』にて、田上診療所として初めての島民医療講話を開催しました。講師は、種子島医療センター循環器内科医師・田上寛容理事長が務められ、テーマは『今日も血圧がせんくんまんくん』。「せんくんまんくん」とは、中種子町の方言で「いっぱいいっぱい、ぎりぎりの限度に達しているさま」を意味します。高血圧という身近でありながら、見過ごされがちなテーマを、地域の言葉に乗せてわかりやすく伝えるという、田上医師らしい温かみのあるタイトルです。

当日は、中種子町150名、西之表市42名、南種子町12名の合計204名もの地域住民の方々にご参加いただきました。講話では動画を取り入れながら、血圧についてわかりやすく、かつユーモアを交えた説明があり、会場は和やかな雰囲気になりました。また、理学療法士による高血圧予防体操も行われ、参加者の皆さまが実際に体を動かしながら予防の大切さを学ぶ場となりました。田上医師から語られた患者さまとの温かいエピソード

には、涙する方もおり、会場全体が一体となった感動的な時間となりました。質疑応答では多くの方から質問が寄せられ、田上医師が一つひとつ丁寧に回答されました。

今回の開催にあたっては、職員にとって初めての企画・運営であり、戸惑いながらも職員一丸となって準備を進めました。また、中種子町保健センターの職員の皆さまにもご協力いただき、行政と連携した運営となったことは大変意義深いことと感じています。共催として中種子町・熊毛薬剤師会・熊毛高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センター、後援として熊毛地区医師会・西之表市・中種子町・種子島医療センターの各機関より多大なるサポートをいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

講話の締めくくりには、田上診療所の新築移転についての発表が行われました。発表には、種子島中央高校ミライデザイン科の生徒たちが制作した動画が用いられ、地域の若い力との協力という形でも大きな話題となりました。田上診療所は、今後も診療にとどまらず、あらゆる形で地域貢献に取り組み、職員一丸となって地域の皆さまの健康を支えてまいります。



田上診療所 新築移転へ ―地域とともに歩んだ歴史、そして新たな一歩―

事務長 濱添 信人

このたび、田上診療所は新築移転を決定しました。令和9年度(2027年度)の完成を目指し、職員一丸となって準備を進めてまいります。長年にわたり地域の皆さまに支えていただいていた田上診療所が、新たな形で地域医療・福祉の拠点として生まれ変わるこの取り組みに、どうぞご期待ください。

田上診療所の歩み

田上診療所の歴史は、平成15年4月にさかのぼります。長年にわたり中種子町の医療を支えてきた「鎌田医院」と「柏医院」が同時に閉院するという、地域医療崩壊の危機が訪れました。二つの診療所が担ってきた役割は大きく、地域住民の皆さまにとって、その閉院は大きな不安をもたらすものでした。そのような窮状に立ち上がったのが、当時の田上病院理事長・田上容正先生でした。病に伏した鎌田多喜子先生から「この地で紡いできた医療の光を、決して絶やさないでほしい」という切なる願いを託され、その想いをしっかりと受け継ぎ、鎌田医院を引き継ぐ形で田上診療所の歴史が始まりました。

また、柏医院の閉院後も、小児医療の灯火を守り続けてくださったのが柏修先生です。81歳で自院を閉院された後も、田上診療所の非常勤医師として診療を続け、92歳でご逝去されるまでの10年間、中種子町の子どもたちを温かく見守り支え続けてくださいました。その献身的な姿勢は、今も多くの地域住民の方々の記憶に深く刻まれています。その後、恒吉先生、そして地元中種子町出身の竹野先生と、歴代の院長が約16年にわたり地域のかかりつけ医としての重責を果たしてこられました。地域の皆さまの日常に寄り添い、一人ひとりの健康を支え続けてきたその歩みは、田上診療所の大切な礎となっています。

そして現在は、南種子町出身の小児科医・岩元二郎先生へとそのバトンが引き継がれ、今日も地域医療の最前線に立ち続けています。このように、多くの医師や職員、そして地域の皆さまに支えられながら、田上診療所は20年以上にわたって中種子町の医療を守り続けてまいりました。

新築移転の概要と想い

新築移転を決断した背景には、建物の老朽化と、少子高齢化や人口減少など変化し続ける島の未来への対応があります。これからの地域医療を担うにふさわしい環境を整えるため、新たな一歩を踏み出す時が来たと判断いたしました。

移転先は、かつて柏先生が小児医療の灯火をともしてこられた「柏医院」の跡地で、現在の診療所からわずか200メートルの場所です。先人たちの志と歴史が刻まれたその土地に、新たな時代の医療拠点を築きます。場所は変わっても、地域への想いと医療の灯火は変わることなく受け継がれていきます。

新しい診療所が目指すのは、単に病気を治す場所にとどまりません。医療・介護・福祉、そして地域の人々が一体となる複合施設として、赤ちゃんからお年寄りまで、すべての世代が支え合い、つながることのできる場所を目指しています。中種子町の医療拠点を、「治す場所」から「つながる場所」へと進化させることが、私たちの掲げるビジョンです。

高校生とのコラボレーション

この新築移転プロジェクトには、種子島中央高校ミライデザイン科の生徒たちもクリエイターとして参加しています。若い世代ならではの豊かな感性と、地域住民の皆さまの温かい想いを融合させながら、「私たちが建てた、私たちの診療所」という誇りをともに分かち合えるプロジェクトとして歩んでまいります。

令和8年2月11日に開催した島民医療講話においても、生徒たちが心を込めて制作した動画でこの新築移転を発表し、参加された多くの方々から大きな反響と温かい声をいただきました。地域の未来を担う若者たちとともに作り上げるこのプロジェクトは、田上診療所にとっても大変心強く、誇りある取り組みです。

先人から受け継いだ医療の灯火を絶やすことなく、地域の皆さまとともに新たな歴史を刻んでいけるよう、田上診療所は全職員が一丸となって歩み続けてまいります。どうぞ温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



訪問看護ステーション 野の花

管理者／訪問看護師 林 美智代



【令和7年度職員】(令和8年3月31日付)

代表者:田上寛容

訪問看護師:榎本親子(~9月)、林美智代(9月~管理者兼務)、西川秋代、副島悠子、内村寿夫(PT)、入江宜圭(PT、向井大輔(PT3月~)

【令和7年度 年間目標】

※管理者交替以降の現状のご報告とさせていただきます。

目標1. 多職種・他事業所との連携を強化し、利用者様の効果的な在宅支援につなぐことができる。

実践:

- ① 各関連機関と「顔の見える関係」を目指しています。「知らなかった、聞いていない、誰からの連絡・・・」をなくすように、ステーション内外に向けての連携シートを活用しています。スタッフ全員がリーダーであり、メンバーです。
- ② 迅速に問題の共有や解決ができるよう、ステーション内外において、個人の情報の取り扱いに注意しつつICTを活用した、多職種との連携もできつつあります。

目標2. 利用者様に関するカンファレンスを充実させ、ケアをフィードバックさせることで、利用者様に安心で、安全なサービスを提供できる。

実践:

- ① 代表である田上寛容先生を中心に、毎月2回の症例検討会を開き、看護・リハビリによる利用者様の状態報告、ご家族・利用者様へのアプローチを検討実践しています。
- ② 必要時にサービス関連事業所と話し合いを設けて困難事例の問題解決や退院直後の医療的サポート、終末期における不安・負担の軽減につなげられるよう努めています。状態が安定している方であっても、ご家族が遠方にいらっしゃるなど不安な中で生活に、わずかでも「あなたたちがきてくれるのがうれしい」と感じていただける温かいチームだと自負しております。

目標3. ワークライフバランスを意識して、各々のスタッフが声掛け、サポートし合える体制づくりができる。

実践:

『One for all All for one』が理想です。

システムの変更やこれまでの習慣を変えることは抵抗があると思いますが、互いの立場や意見を尊重し、深夜のコール対応、休暇中に頑張ってくれる仲間に言葉で感謝を伝えることを皆が心がけています。

野の花の理念である「島民を支え、助け、寄り添う」スタイルが形になってきていると思います。一緒に頑張ってくれた仲間に感謝です!

【実績】R8.3.18現在調べ

利用者総数:R6年度113名/R7年度120名

令和6年度訪問延べ件数:2851件

看1900(介)+149(医)/RH422(介)+393件(医)

令和7年度訪問延べ件数:3061件

看1925(介)+260(医)/RH544(介)+378件(医)

【振り返り】

近年の指定訪問看護ステーションの運営に併せつつ、社会医療法人義順顕彰会と強く連携しているステーションであるメリットを活かすことを目標にしました。システムの変更やみなしの訪問看護と指定訪問看護事業所の違いなどスタッフと一緒に学び、改善しながらより良いステーションとなるよう全員で頑張れた年でした。

訪問リハビリテーション事業所(種子島医療センター・田上診療所)

リハビリテーション室 理学療法士 内村 寿夫



【令和7年度職員】(令和8年3月31日付)

理学療法士／内村寿夫、入江宣圭、
馬場健大、浜崎夏帆
言語聴覚士／松尾あやの、北上瞭歩

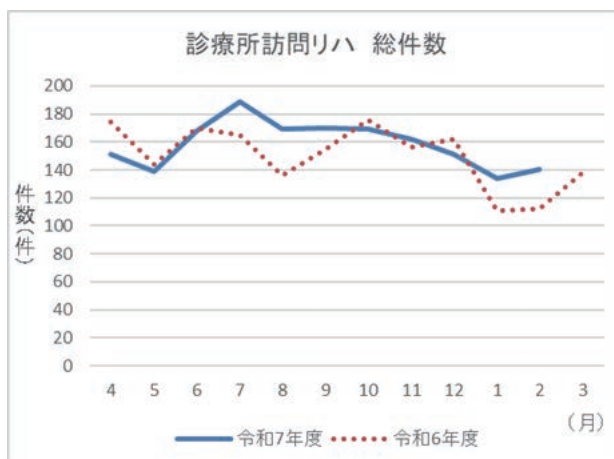
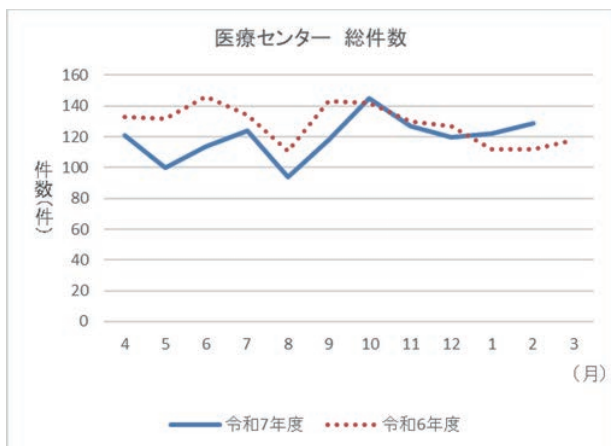
【令和7年度 年間目標】

「生活課題に対して、責任を持って解決へ導く訪問リハチーム」

【振り返り】

昨年度は、スタッフ一人ひとりが利用者様の「自立支援」を常に意識し、組織として基盤を固める1年となりました。今年度は「生活課題に対して責任を持って解決に導く訪問リハチーム」という目標を掲げ、日々の業務に精進してまいりました。

【実績】



介護老人保健施設 わらび苑

施設長 松本 松昱

介護老人保健施設わらび苑は、義順顕彰会が運営する入所定員99名(短期入所含む)の施設です。当苑は、「種子島の高齢者に安心を」を基本理念に掲げ、利用者様が自宅での生活に一日でも早く復帰できるよう、リハビリテーションを中心とした医療ケアと日常生活上の支援を提供しています。

【令和7年度の主な取り組みと実績】

1. 在宅復帰・在宅療養支援の強化

リハビリ専門職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)を増員し、個別リハビリテーションの提供時間を拡充しました。また、退所前の多職種合同カンファレンスには居宅介護支援事業所のケアマネジャーの参加を促し、より円滑な在宅移行とサービス連携に努めています。

指標	令和6年度 実績	令和7年度 実績	目標達成率
在宅復帰率	76.3%	85.4%	161.7%
平均 在所日数	179.8日	198.1日	-

2. 質の高いケア提供に向けた職員研修

介護サービスに関する各種研修会へ職員を積極的に参加させ、参加者が苑内の伝達講習会で内容を共有することで、施設全体のケアの質の底上げを図りました。認知症ケアや看取りケアをはじめ、利用者様の尊厳を尊重した支援の実践力向上に努めています。

3. 地域連携の推進

介護事業所や種子島医療センターとの連携を強化し、レスパイトケア(介護者の一時的な休息)としての短期入所利用の受け入れ枠を拡大しました。

〈連携実績〉

・医療センターから依頼件数:年間97件

4. 感染症対策

毎年のように新型コロナウイルス感染症のクラスターを経験しています。他に下記の感染症に対しても職員一同で対策を講じています。

[肺結核、疥癬、新型インフルエンザ感染症、クロストリジウム・ディフィシル感染症、薬剤耐性菌による感染症]

〈主な対策〉

・振り返りを含んだ全職員への感染講義
・苑内マニュアル作成と徹底

5. 増収増益

可能な加算項目は取りこぼしのないように請求を行っていきます。ポリファーマシーを解決して薬剤費を削減していきます。

【今後の展望】

来年度は、特に個別ケアの更なる充実を目指し、利用者様一人ひとりの生活歴や価値観に基づいた「個別機能訓練計画」の策定と実施を徹底します。また、見守りセンサー等の介護テクノロジーの導入を進め、ケアの質の向上と職員の負担軽減を図るとともに、多職種間の情報共有を迅速化し、業務効率の向上に努めます。引き続き、地域に開かれた施設として、利用者様とご家族、そして地域社会に貢献してまいります。

院内保育所

所長 中村 智美



院内保育所では、0～3歳までの子どもを中心に24時間保育を行っています。また、幼稚園や保育園がお休みの時、小学生の下校後のお預かりも行っています。その他、当院の受診を必要とする子どもさんの兄弟姉妹を、受診の間一時的にお預かりすることもあります。

病院で働くお母さん方が安心して働けるよう、また当院を気兼ねなく受診できるよう、日々努めています。

毎月、子どもたちの可愛い手形や足形を使った作品も院内に展示してあるので是非ご覧ください。

【令和7年度職員】(令和8年3月31日付)

所長/中村智美

新原祐子、上妻明香



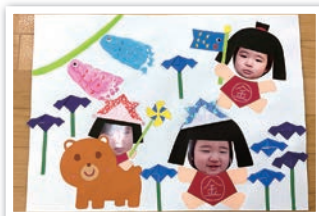
令和7年度 院内保育所 作品集

今年度も子どもたちのかわいい作品を掲示しました！

【春】



4月 (チューリップとつくし)

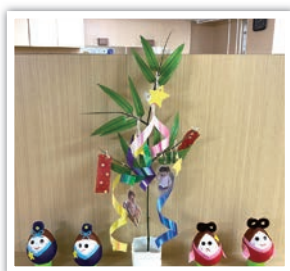


5月 (端午の節句)



6月 (梅雨)

【夏】



7月 (七夕)

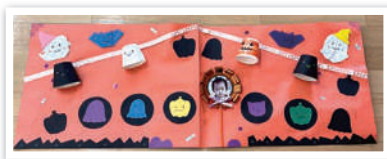


8月 (ひまわり)



9月 (ふくろう)

【秋】



10月 (ハロウィン)

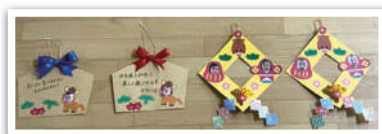


11月 (木の実)



12月 (クリスマス)

【冬】



1月 (午年)



2月 (節分)



3月 (ひな祭り)